



横浜市立富岡小学校

# 学校だより 9月号



## 止まっていた時計の針が再始動

副校長 雨宮 端

今年の夏は連日暑い日が続き、記録的な猛暑の夏となりました。また、お盆休みの時期には、日本列島を台風が直撃し、交通の乱れに影響を受けたり、予定していた計画の変更を余儀なくされたりというご家庭もあったのではないのでしょうか。

一方で、新型コロナウイルス感染症の5類移行後、初めての夏休みとあって、これまでに止まっていた時計の針が再び動き出したものも多かったように思います。例えば、学校では、希望者を対象とする夏季水泳教室を全学年で実施することができました。例年、7月下旬の不安定な大気の影響で、実施か中止かで悩ましい日が数日はあるのですが、今年に関しては快晴の連続。期間中は毎日、子どもたちの元気な声と水しぶきの音が鳴り響いていました。そして、8月5日には、4年ぶりに復活した西部町内会主催のお祭りが本校校庭で開催され、多くの児童がエイサー・ソーランに参加して夏の夜を彩ってくれました。運動会での緊張感の中の迫真の演技とは一味違う、楽しげに踊る子どもたちの姿が印象的でした。多くの方々に見守られ、地域の宝であるその存在感を大いに発揮していました。

復活と言えば、夏の甲子園でのプラスバンドや声を出しての応援も、再び動き出しました。神奈川県代表の慶應義塾高校による107年ぶりに全国制覇や各校の工夫を凝らした応援が盛り上がりを見せた中、私が注目したのは慶應義塾高校野球部の方針です。キーワードは「多様性」「自主性」「楽しむ」の三つ。野球部＝坊主頭という「高校野球の常識」に縛られない自由な髪形に代表される多様性の尊重が話題になりました。また、監督のサインで動くのが主流の野球において、自分たちで考える余地、自分で決めて動く余地があるというチーム方針。この「余地」の与え方が大切で、そして絶妙であったのだらうと思いました。そして、「エンジョイベースボール」をスローガンに掲げ、徹底して楽しむ姿勢は、選手たちの笑顔や互いへの声掛けとなって強く表れていました。この三つのキーワードは、いずれも学校における教育の大切な要素と重なります。監督の森林貴彦さんは、普段は慶應の小学校教師だそうです。柔軟な発想や指導力を自分も見習っていきたいと思いました。

止まっていた時計の針が再び動き出した“アフターコロナ”と呼ばれる昨今、私たちも、取り戻していくべきもの、新たな形を模索していくべきものを見極めて、子どもたちとともに、より充実した教育の在り方を模索してまいります。

さて、学校では夏休み明けから前期のまとめの時期に入ります。これまでの学習の成果を自分自身の着実な力として定着させていけるよう努めてまいります。そして、150周年イヤーの山場である11月の記念式典に向け、児童・職員一丸となって学習、準備を進めてまいります。保護者・地域の皆様にご協力いただく場面も多々あるかと思いますが、引き続き、温かなご支援をどうぞよろしくお願いいたします。